

(別紙様式2-2)

## 道徳教育地域支援委託事業実施報告書(平成29年度)

### 1 学校の概要

- (1) 学校名 高松市立香東中学校
- (2) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (平成30年1月25日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
8学級 252名	7学級 246名	6学級 266名	3学級 12名	776名	41名

### 2 研究主題等

- (1) 研究主題 他者と共によりよく生きる生徒を育てる道徳教育  
～豊かな体験と考えを深める学習を通して～
- (2) 研究主題設定の理由

平成27年度に本事業の指定を受けて、道徳の時間における共通題材による授業実践、「道徳の日」の取組、ローテーション道徳の実践、豊かな体験を通しての短歌づくりや環境整備などに取り組み、生徒の考える力と表現力や教師の授業力の向上などに成果が見られた。平成28年度には、それまでの実践を継続的に実施する中に、T・Tによる授業など新たな実践を加えたり、教育活動全体の中で個々の実践を相互に有機的な関連をもたせて実施したりすることにより、さらに効果をあげている。2年間の取組により教員の道徳教育充実に向けての意識が高まる一方で、全教員で取り組む体制づくりの必要性を感じている。そこで、本年度も研究主題を引き継ぎ、成果が見られた研究内容や方法については、継続的に実践を積み重ねていきたいと考えた。さらに、平成31年度の教科化に向けて、道徳教育の指導体制を確立させることができればと考えている。

### (3) 研究内容及び方法

研究内容は平成28年度と同様に①～⑤に設定し、改善も加えながら継続して取り組むことを基本とする。本年度は特に「量的確保と質的充実」に重点を置き、年間35時間の道徳の時間の確保、副読本を用いた授業、評価など様々な実践を行う。また、教科化に向けた道徳の時間の指導体制の整備と、全教員の共通理解のもと学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行う協力体制づくりに取り組む。

#### ① 道徳の要としての道徳の時間の充実

ローテーション道徳やT・Tによる授業を効果的に取り入れた35時間の量的確保を行う。また、副読本の資料を用いた授業改善、考え議論する指導方法の工夫を実践することで質的向上をめざす。具体的には、指導者を招いての研究授業や研修等を通して、授業力の向上と、教科化を意識して試行的に評価を行う。

#### ② 「道徳の日」の取組

毎月1回、映像資料と「私たちの道徳」を用いた全校一斉の「道徳の日」を、道徳の時間や学校の様々な教育活動との関連に基づいて計画的に実施する。

#### ③ 豊かな体験活動

職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、伝統や文化にかかわる体験、地域行事への参加などの体験活動を継続し、活動を通じて学んだ内容の意義などについてより深く振り返って考えることができるようにする。短歌づくりや心のメッセージ作品づくりなど、自分の考えを表現する活動を大切に、他者から認められることで自己肯定感を育てるとともに、友だちの思いや感じ方に共感する心を育てる。

#### ④ 保護者・地域への情報発信と連携

授業公開やブログ、道徳だより等で保護者や地域に積極的に情報提供を行う。また、学期に1回「私たちの道徳」を家庭に持ち帰って、家族で話し合う機会を設ける。

#### ⑤ よりよい環境づくり

教室や校舎内外の環境整備に学校全体として取り組み、豊かな情操を育み、自己の存在を確認できる環境を整える。

### 3 研究実践

#### (1) 研究の5つの柱

平成 27 年度より実践している①道徳の時間の充実、②「道徳の日」の取組、③豊かな体験活動、④保護者・地域への情報発信と連携、⑤よりよい環境づくりの5つの柱を中心に据え、継続的に実践を積み重ねつつ、改善を加えながら研究をすすめている概要を、下図に示す。(平成 27・28 年度報告書参照)

#### ① 道徳の時間の充実

学年ごとに同一時間に道徳の時間を設定し、ローテーション道徳やT・Tによる授業を取り入れながら、担任だけでなく全職員で取り組んでいる。

##### ■ ローテーション道徳の実践

教師がローテーションして学級担任以外の学級で授業をする道徳を、学期に1回ずつ実施した。



##### ■ 現代的な課題を題材とする授業実践

情報モラルやいじめなど、生徒が興味・関心をもつ現代的な課題を題材とする資料を扱う授業を行った。



##### ■ 授業実践力の向上・教員研修の実施

学年全クラスが、年間指導計画に沿って同一教材で授業を実践した。中心発問やワークシート、掲示物などを共通して作成することで授業準備の負担を軽減し、それを次年度の授業で活用できるようにファイリングしている。

互いに授業参観し合ったり、研究授業を行い討議で研究を深めたりするほか、大学や教育委員会から指導者を招聘するなどして、授業改善や指導力の向上に努めている。

##### ■ 考えを広げ、深め、表現する言語活動

生徒が自分の考えを、議論したり書いたりして、考えを深め、友だちの考えを聞いて、考えを広げたりして、表現する力を育むことができるように、多様な指導方法や表現方法を工夫し



#### ② 「道徳の日」の取組

##### ■ 映像教材による全校一斉の道徳

毎月第3週火曜日を「道徳の日」とし、朝の20分の時間に、映像による教材に「私たちの道徳」を併用し、全校一斉の道徳を実施している。

毎月のテーマを継続的に掲示し、各月ごとに、生徒のさまざまな感想を掲示している。



#### ③ 豊かな体験活動

体育大会、コーラス大会、人権集会、持久走大会等の学校行事、宿泊学習、職場体験学習、部活動ボランティア、あいさつ運動などのさまざまな体験活動を実施している。



##### ■ 振り返りからさらに学ぶ

体験を通して学んだことを振り返る時間を設定している。各自の振り返りを教室や廊下に掲示し、他者から学べる環境を整備している。



##### ■ 自分の思いを表す言語活動

毎月の短歌づくり、心のメッセージづくりなど、自分の思いを表現する活動を促進している。自己肯定感を高め、友だちの思いや感じ方に、共感する心を育てることをねらいとしている。



#### ④ 地域・保護者への情報発信と連携

##### ■ 授業公開

授業参観や校内研究会で、保護者や学校評議員、校区の小学校や県内の中学校の先生方に公開している。

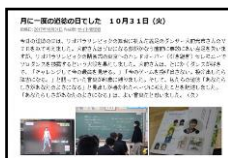


##### ■ 道徳だより・ブログ

毎日更新のブログと毎月発行の道徳だよりで、道徳に関わる学習内容や生徒の様子と感想を、写真と共に、保護者や地域に発信している。

##### ■ 保護者と連携

学期に1回「私たちの道徳」を持ち帰り、生徒が保護者と話し合う機会を設定している。家族からのメッセージをいただき、校内掲示している。



#### ⑤ よりよい環境づくり

##### ■ 花と緑の環境

校庭には四季折々の草花が咲き、教室や廊下に花を生け、豊かな情操を育む環境を整えている。

##### ■ 教室掲示・校内掲示

各教室の背面は、工夫を凝らし一人一人が存在する掲示をしている。校舎内に学びの足跡を掲示し、認められた喜びや、自己肯定感を高められる環境にしている。



## (2) 道徳の時間の量的確保

道徳の時間を確実に実施するために、平成27年度には各学年で道徳の時間を統一して、月1回行っていた共通道徳を、平成28年度2学期からは、すべての時間に広げた。本年度は、その取り組みを継続し、年間指導計画をもとに学期ごとに実施日と担当者を明記した計画表を配布し、学年団の教員の意識を高めながら、実践につなげている。計画では、行事や時間割変更等で実施ができない日を把握し、学級活動や総合的な学習の時間と時間割を振替ながら毎週1時間、毎月3時間以上は確保するようにした。本年度の実施記録をもとに、来年度の年間指導計画に修正を加えていくことで、平成31年度につなげていけるようにしている。また、「道徳回数」を入れたワークシートを利用し、各教員の意欲を高めるようにした。

月	項目	主題名	資料名	月	日	項目	主題名	資料名	担当
6	D-22	よりよく生きる喜び	足袋の季節	6	6(火)	D-22	よりよく生きる喜び	足袋の季節	川北
	B-6	思いやり	伝言板		13(火)	B-6	思いやり	伝言板	翠
	A-3	個性の伸長	人は何のために働くのか		20(火)	A-3	個性の伸長	人は何のために働くのか	蔵本
7	B-13	勤労	あめ細工	7	30(金)	B-13	勤労	ローテーションあめ細工	川北・井川 多田・毛利
	B-9	相互理解・寛容	言葉の向こうに		4(火)	B-9	相互理解・寛容	ローテーション言葉の向こうに	池田・翠 大北
	B-6	感謝	金色の稲穂		11(火)	B-6	感謝	ローテーション金色の稲穂	蔵本・斎藤 寺岡・廣田

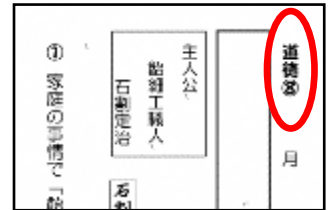
担当者

火曜がテストのため、  
曜日を振り替えて実施

年間指導計画

曜日・時間

実施計画表



授業の様子

回数を記入したワークシート

## (3) 道徳の時間の質的充実

本年度も、生徒が主体的に取り組み、互いに多様な考え方を学び合う授業を行うために、自分の考えをもって討論したり、表現したりすることを通して、考えを深め合うことができる多様な学習活動を取り入れた。活動の形態は昨年と同様に、ペア学習、少人数で行うバズ学習、役割演技、ディベート形式等、話し合う内容に応じて選択した。また、考えを表現する方法として、発表、ロールプレイ、ホワイトボードの活用、付せん紙を用いた活動、ネームカードによる意思表示など、さまざまな形をとっている。本年度、新たに実践したのは、コの字型の授業形態、意思表示プレート、ランキング形式、ホワイトボードミーティング、イラストによる振り返りなどである。学習活動に変化をつけることで、生徒がより意欲的・主体的に取り組むので、年間指導計画を考える際に、様々な学習形態をバランスよく配置する必要性も感じている。



ペア学習



バズ学習



役割演技



ロールプレイ



付せん紙



ネームカードによる意思表示



コの字型授業



意思表示プレート



ランキング形式



ホワイトボードミーティング



イラストによる自己評価

また、同じ事象でも立場や状況によって見方が異なったり、複数の道徳的な価値が対立したりして結論を決めにくい内容を扱うといろいろな意見があり、深い学びにつながるので、「償い」や「二通の手紙」「臓器移植」の授業では、自分の立場を明確にして議論する授業を行った。



授業の様子

また、授業の質をより高めるために、指導者（県教委指導主事）を招いて、各学年で検討した指導で研究授業を行う校内研修会を行った。本年度は、高松市の道徳研修会とタイアップし、他校の教師も交えて討議を行うことで、活発に意見交換でき、授業者だけでなく全教員の研究が深まった。さらに指導者からの指導・助言により、教師の指導力の向上を図った。また夏季休業中には、2学期以降の道徳の授業の改善のために、講師（香川大学 植田和也教授）を招いて質の高い授業をめざし、指導案作りの演習を交えながら研修を行った。



1年「脱ぎっぱなしの羽」



2年「ゴール裏の青春」



3年「五井先生と太郎」



授業討議

学校での研究実践を進める一方で、平成31年度から実施される特別な教科道徳についての研修を行ったり、全国道徳研究大会で提案発表しているさまざまな研究実践校から学んだことを校内研修の場で報告して全教員に広めたりと、多様な校内研修で教員の意識改革を図った。



校内夏季研修会



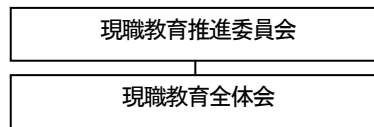
校内研修

#### (4) 全教員で取り組む体制づくり

2年間の研究実践において成果が見られた研究内容や方法について、平成31年度に教科化が完全実施されてからも無理なく実践していくために、全教員で取り組む体制づくりが必要である。そこで、右図のように研究組織を編成し、協力して実践を行う、チーム学校となる体制を組織した。

##### ① 現職教育推進委員会

学校の教育活動全体を見通しながら、研究に偏り負担が重くなることなく、学校全体の活動としてバランスよく研究を進めるために、毎週火曜日5校時に、推進委員会（校長、教頭、教務主任、現職教育主任、道徳主任、各学年研究部員）をもち、研究方法や実践の協議、運営方法、研究の見直し等を協議した。学校全体の状況や各学年の様子を把握しながら研究を計画的に進めることができている。



	道徳の時間	道徳の日	豊かな体験
7/1-	三好 下地	久保田	勝浦
1年	松岡 西山 景政 楠村 清吾	浅野 安藤 森岡 吉田 高野	○新谷 藤川 由良 河野
2年	○大北 多田 川北 蔵本 翠	井川 池田 毛利 廣田	斎藤 寺岡 和田
3年	中上 岡田 湯谷 末沢 川田	○宮本 古市 谷 柳	林 河田 中嶋

##### ② 3部会に分けて役割分担

全教員が3部会に分かれて、各々が自分の役割を果たすことで研究を進めることにした。まず、4月の現職教育全体会で、研究内容と方法を共通理解した。その後、部会ごとに話し合っ、役割を分担した。



現職教育全体会



道徳の時間部会



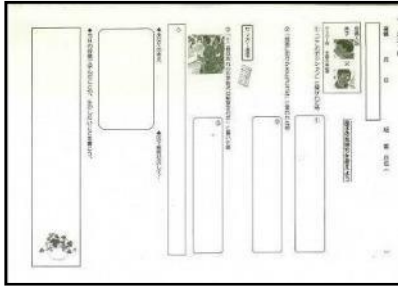
道徳の日部会



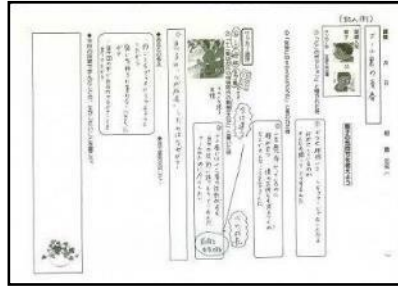
豊かな体験部会

## ア 道徳の時間部会

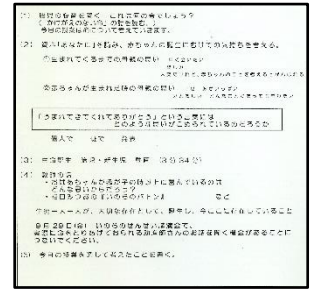
道徳の時間部会では、道徳の時間の授業準備を各学年内で役割分担することで学級担任や若年教員の負担を軽減し、道徳の授業の確保に努めた。分担方法は、年間指導計画に沿って各時間の担当を決め、担当者は、授業の中心発問、ワークシート、板書グッズ、資料、おおまかな授業の展開例を準備するようにした。その際、昨年、一昨年度に共通道徳としてファイリングしていた資料も有効に活用するようにした。また、新しく作る場合も、ワークシート・板書・展開例のひな型ファイルを、全職員が利用できる学校の共通フォルダに保存しておき、準備が時間短縮ができるようにした。ファイリングされた資料が蓄積されていくことで、来年度以降の授業準備の負担の軽減が見込める。



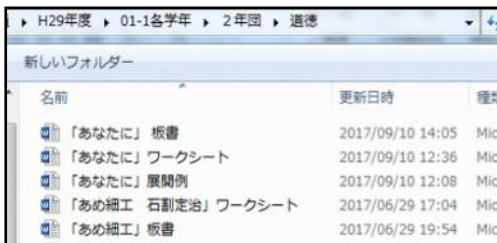
ワークシート



ワークシート記入例



展開例



学校共通フォルダ内のひな型ファイル



板書グッズ



板書グッズを用いての授業



ファイリングしている資料

また、道徳だよりである「道徳の足あと」の原稿作成者も分担して行い、授業の内容や感想、授業風景の執筆を部会内の全教員で負担し、協力している。




**3年** 題材「思い出のオムライス」  
誠実な生き方1ー(3)

主人公の「私」が、小学校3年生のときに嘘をついて行動してしまった失敗を思い返し、そのときの母の思いに気づき、自分にも他人にも誠実に生きることを考えさせる資料です。嘘をついたときの「私」の心の葛藤と叱った母の思いを班で意見交換を交えて考えました。また、絶対に嘘をつかないということではなく、誰かを裏切り悲しい思いをさせるような嘘をつかないこと、自分や社会に対して誠実であることを学びました。

嘘を平気でつくような人には誰もついてこないと思うし、困ったときも誰も助けてくれないと思う。嘘には人を傷つけないための良い嘘もある。嘘をつくなら良い嘘を、そして人から信頼される人になりたい。

嘘をつくことが悪いのではなく、平然と人を欺く人間になることがいけないということが分かった。だから僕は相手を守る気持ちを持って行動できるようにしたい。

途中までの話では嘘をつくことがだめなのだと思っていたけれど、最後まで読むと自分のことだけを考えて相手をおだますという行為がいけないことだと理解しました。

道徳だより「道徳の足あと」道徳の時間の原稿

## イ ローテーション道徳の実施

2年前から実施し、良い効果が見られているローテーション道徳を、本年度は学期に1回、合計3回実施した。昨年度までの反省から配慮を必要とする生徒を把握するために、1年生は1学期には実施せず、2学期に2回実施し、年間3回とした。ローテーション道徳の取組も3年目になり、生徒は中学校では教科と同じように、道徳もいろいろな先生が行うものと捉え、楽しみにしている。ローテーション道徳の回数を重ねることで、教員も計画表を配布し、グループごとに簡単な打ち合わせを行うだけで、実施できるようになっている。

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組
6/30(金)	廣藤	大北	池田	鏡本	川北	寺岡	井川
7/4(火)	毛利	廣藤	鏡本	池田	川北	大北	寺岡
7/11(火)	大北	井川	多田	川北	廣田	鏡本	寺岡

Aグループ	Bグループ	Cグループ
川北2 井川2 多田1 寺岡1 あか組工 石塚監督	大北2 鏡2 池田2 「書庫のまごころ」 B-1(3) 豊田のゆき・幸生	鏡本3 廣藤2 寺岡1 廣田1 「金目の鯛」 B-1(6) 藤原

ローテーション道徳計画表



## ② 「道徳の日」部会

道徳の日部会では、4月に1年間の「道徳の日」を各学年の担当で分担を決め、役割分担をして計画的に進めている。その月の担当者は、価値項目や行事との関連を考えて、20分程度の映像や朗読を探して内容を考え、授業の進め方、映像の説明、放送原稿、板書案、「私たちの道徳」の該当ページを記入した実施プリントを作成する。学級担任は、配布された実施プリントを参考にして進め、映像を見ながら板書を行ったり、自分の思いを語ったりする。実施に当たっては、放送部がアナウンスや映像操作を担当したり、人権集会前には生徒会が作成したいじめを題材とした映像を用いたり、生徒も運営に関わっている。また、毎月のテーマや各月の生徒の感想を校内掲示する係と道徳だよりの原稿の執筆係を分担し、部会全員で協力して運営している。

授業の様子

	映像・原稿	道徳だよりの	掲示
4月	宮本	谷	柳
5月	井川	池田	廣田
6月	浅野	高野	吉田
7月	古市	柳	宮本
9月	谷	森岡	古市
10月	池田	毛利	廣田
11月	生徒会	湯谷	高野

「道徳の日」役割分担表



「道徳の日」の様子



生徒会作成ビデオ



放送部が運営に協力

授業の進め方

放送原稿

映像の説明

板書例

私たちの道徳 該当ページ

### ③ 豊かな体験部会

昨年度と同様に、体育大会、コーラス大会、人権集会、持久走大会などの学校行事、宿泊学習、職場体験学習、部活動ボランティア、あいさつ運動などの体験活動を推進し、実施している。本年度は、学校行事にも、道徳との関連項目を明記し、職員会議で提案することで、学校の教育活動全体を通して道徳教育を意識できるようにするとともに、全教員で共通理解を促すきっかけになるようにした。

豊かな体験部会では、行事や季節など毎月テーマに沿って、今の心を短歌に詠む活動をしている。4月に1年間の短歌のテーマを決めておき、各学年の担当で、用紙の準備、各クラス代表の選出、校内掲示の準備、道徳だより執筆を、役割分担をして効率的に進めている。また、各クラスでの掲示や掲示板の掲示など、生徒も運営に関わっている。

	準備・選出	掲示	道徳だより
1年	藤川	河野	由良
2年	斎藤	和田	寺岡
3年	河田	中嶋	林

	1年	2年	3年
4月	中学生になって	新年度を迎えて	新年度を迎えて
5月	水資源学習	職場見学	修学旅行
6月	体育大会を終えて		

短歌のテーマ



今月の短歌クラス代表の選出



学年の優秀作品を毎月掲示板に掲示

## 道徳の足あと

H29. 11. 30. (木)

【10月の道徳の日 10月31日(火)実施】

今日の道徳の日は、リオデジャネイロパラリンピックの興奮に沸んだ朝原のダンナー大前亮さんのVTRを見て考えました。大前さんはアムになる夢がかなう直前に事故に会い、左足が失われますが、リオデジャネイロパラリンピック開会式の東京へのハンドオフで「引き継ぎ」セレモニーでソロダンスを披露する大役を果たしました。自分自身の成長は正にはあるのか、そしてそれをどう伸ばしていくことができるのだろうかということについて考えました。

自分を見つめ個性を伸ばす

自分を見つめ個性を伸ばす

道徳の足あと

「道徳の足あと」道徳の日の原稿

平成29年度 第40回 校内持久走大会 実施計画 (案)

(兼H20.1.13 高松地区駅伝大会学校代表選手会考)

校 訓 「自主 誠実 友愛」

教育目標 「将来の夢や目標に向かってチャレンジする、心豊かでたくましい生徒の育成」

- 目的
  - たくましい心と体をつくる。
  - 自分の目標を定め、体力向上を目指して最後まで粘り強くやり遂げる態度を養う。
  - 長期目標に挑戦し、体力づくりや健康づくりに役立たせる。
  - 体育の授業や部活動で培った持久力の発揮の場とする。
- 道徳科との関連
 

A-4 希望と勇気、克己と強い意志

自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにする。小さな目標であっても、それが達成されたときに達成感を感じ、目標と次に向けて挑戦しようとする勇氣が福より高い目標に向かって努力する意欲を引き出すことにもつながる。
- H 時 平成29年12月12日(火) 6時20分～4校時 (雨天時) 12月13日(水) 6時20分～4校時
- 場 所 高松川総合体育公園・高松川自転車道の周辺
- 参加者 全学年生徒(参加可能な体育の生徒)

学校行事と道徳の関連を明記

### 十一月の短歌

一年「五色盆字習から学んだこと」

一組 一組で、最初で最後の「五色盆」GOODカードで、いい所見つけて、二組 考えて、「自分で動く」できました。新しい自分、見つけていこう。三組 火の使い、言葉遣いで、落ちこんだ、はげましの声、元気いっぱい。四組 たくさんの、キャンデルを見て、気づいて、周りのきびしさ、優しさを感じた。五組 少しだけ、大人になれた、四日蘭、友だちからの、信頼のかけ。六組 草木染め、どんなにも、なるのかと、待つ、待つ、待つ、一番美しい。七組 五色盆、いろんな事があったけど、クラスみんな、きずなUP!!!。八組 環路道、あいさつをして、いい気持ち、心あたたまる、明るい日。

二年「人権学習を終えて」

一組 ハンセン病、偏見だけじゃ、差別され、故郷に帰れず、東洋にさす。二組 少しだけ、自分とかが、そのときは、差別しないで、助け合おう。三組 その言動、傷つけてない、言えますか？、人の心を、考えてみて。四組 「そうだろう」、そういう思い込みが、重くなって、差別はひんびん、大きくなって。五組 いつまでも、なくならずにいる、差別たち、悲しいけれど、事実です。六組 差別という、暗い闇、なくそうよ、やられた人の、気持ちになつて。七組 今までに、習ってきた、人権の、大事なこと、は、中身ということ。

三年「人権学習を終えて」

一組 見るべきは、資格でなく、人柄だ、そんな意識を、持った社会に。二組 差別心、なくして、いこう、そのために、まずは自分が、学んでいこう。三組 今までに、習ってきた差別は、変わらない、けれども、今から、変えてゆこう。四組 差別ゼロ、社会が一つに、なるために、自分が変わる、みんなが変える。五組 差別は、悲しい過去を、受け止めて、今自分たちに、できることを。六組 差別は、遠い過去、当たり前、違いの、違いは、みんなの個性。七組 今まで、たくさんの人に、助けられた、だから、今度は、自分の番。

「道徳の足あと」今月の短歌原稿

(5) 道徳の時間の評価について

授業改善を進める一方で、平成31年度の教科化の評価を意識して、試行的に生徒自身による自己評価を実施した。各学期末に、その学期の道徳の時間を振り返り、「自分の考え方・判断に影響があったと思った授業とその理由」「心が動き、感動した授業とその理由」「自分のこれからに生かしていこうと思った授業とその理由」について、ワークシートに記入させる時間をもった。その際、授業を思い出しながら記入できるように、教材名、テーマ、主な内容や考えたこと（中心発問）の一覧表を作成し、授業を思い出しながら記入できるようにした。生徒の率直な考えが、自分のことばとして表現されており、評価の一助にと続けていこうと考えている。また、授業中の様子や発言を見取るために、T・Tによる授業の有効性を感じている。しかしながら、教員の人数の関係で、すべての授業での実施は難しいので、ローテーション道徳を活用して、全クラスT・Tによる授業が行える授業を実践したり、学級担任がT2に入ったりするなどの方法を来年度試してみたいと思っている。

2年2学期 「道徳の授業を振り返って」			
番号	教材名	テーマ	主な内容や考えたこと (中心発問)
10	「あなたに」	D-(19) 生命の尊さ	自分が今ここにいてこの不思議さや生命の連続性に気づき、何がなの存在であることに誇りをもち、自他の生命を尊重しようとする心を育てる。 (「生まれてきてくれたありがとう」といふ言葉にはどのような思いがこめられているのだろうか。)
11	「ゴール裏の青春」	A-(3) 向上心・個性の伸長	自分にとっての充実した生き方を求め、個性を伸ばして自分を自信を生かそうとする態度を育てる。 (「球給い」ではなく「球番号12」とした 高子はどんな思いがあったのだろうか。)
12	「僕が一番欲しかったもの」 作詞・作曲 坂原敬之	B-(6) 人間愛・思いやり	思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えるよさを知る心が、結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだというこに気づかせる。 (僕が一番欲しかったものは何だろうか。)
13	「歌の世界で太陽になりたい」	A-(4) 希望と勇気	絶えず高い理想を求め、志をもって、人生を意欲的に豊かに生きようとする態度と態度を育てる。 (本田さんはどのような努力をしてくださったのだろうか。)
14	「大きな木」 作:シェン・シルヴァスタイン	B-(6) 感謝	無償の愛について考え、日々の生活の中で自分を支えてくれている多くの人の善意や生えに気づき、人間愛の精神を深める。 (この木のストーリーを考えてみよう。)
15	「父との約束」	A-(1) 自主・自覚、責任	自らの行為や行動が自分や他人に対して及ぼす影響を深く考え、誠実に実行して責任ある行動をとろうとする態度を育てる。 (何を教えられ、なぜ元気がでたのだろうか。)
16	「あるヒーロー物語」	B-(8) 友情、信頼	相手のよさを認め、相手の成長を心から願い、互いに励まし合い、忠告し合える友関係を構築しようとする心を育てる。 (サムとトムの違いってなんだろうか。)
17	「誰が犯人？」	C-(10) 法やまじりの遵守	社会にあるさまじりの意義を理解し守ることで、自他の権利をまもり、よい社会をつくらねばならないと考える態度を育てる。 (この経験を生かして、どんな言葉を使われるか。)
18	「美しい奇の顔」	C-(14) 家族愛	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生活について考えを深め、自分の能力や個性を生かして、充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。 (「ほじはいいばい」争いがあるって、毎日が楽しいですわねと言う石刺さんは、どんな気持ちなのだろうか。)
19	「厳君の笑顔」	C-(11) 正義、公正・公平	誰に対しても公正・公平に接することの大切さについての自覚を深め、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする心を育てる。 (「一人ひとり大切にすること」はどうだろうか。)
20	「僕い」	D-(22) よりよい生き生き	自らの行為の結果に責任をもち、誠実に実行し、自己の生き方に誇りをもって生きていこうとする態度を育てる。 (ゆりちゃんは許されたのか 許されていないのか？ その理由は？)

**2学期の振り返り**      2年

一番、自分の考え方・判断に影響があったと思った授業の番号を書こう → ( 20 )

なぜそう思ったのか、理由を書こう。

今までの道徳で一番考えさせられた物語でした。自分の意見がからいてしらすほど、迷ったのでした。人、T、Tの感情に込められた思いがある、それを改めて感じました。意見として話し合いたい、もついてもいいというのがありました。それが特に良かったです。話し合いたい、いいのかもしれない。私達と違うかもしれない。そんなことを考えた。話し合いたい、どうするかわかりませんが、多分、今の自分と同じだと思います。

一番、心が動き、感動したと思った授業の番号を書こう → ( 18 )

なぜそう思ったのか、理由を書こう。

いつも僕がや愛に気づくのは、静かになった時です。そこが少し悲しいなと思ったりもありません。この物語は自分を責めてしまったり、子供を育てるお母さんの話です。お母さんには「愛」に気づかせることが、とても大切だと感じました。お母さんから、他人や家族、友達への優しさを感じたり、それを返すことが出来るようになる人になりたいと思いました。

一番、自分のこれからに生かしていこうと思った授業の番号を書こう → ( 12 )

なぜそう思ったのか、理由を書こう。

思いやりや感謝の気持ちが「一番欲しかったもの」のなかで考えました。また、それを目標から口にして伝えることが大切だと学びました。そういうことにより、自分と他人との間に距離が生まれるか、と考えることが、とても大切だと感じました。お母さんや家族、友達への優しさを感じたり、それを返すことが出来るようになる人になりたいと思いました。

この期間を通して、あなたは「道徳の授業」をどう感じましたか？

他人の目線から気持ちを考えられるようになったり、自分と他人との関係の大切さを思い知ることが出来ました。今までは自分と、将来の自分と、自分と他人との間に距離が生まれるか、と考えることが、とても大切だと感じました。お母さんや家族、友達への優しさを感じたり、それを返すことが出来るようになる人になりたいと思いました。

振り返りワークシート

《 具体的な記述内容 》

- ・ 今までの道徳で一番考えさせられた資料だった。
- ・ 自分の意見が揺らいでしまうほど迷いました。人ってひとつの感情で決められないことがあることに気がきました。
- ・ 母への考えが変わりました。改めて、家族の愛が分かり、家族への感謝の気持ちが湧いてきました。
- ・ 私も、どんなことにも挑戦し続けたいし、自分にできることを考え続ける姿勢を見習いたいと思った。
- ・ サムとトムはそれぞれ違う個性を持っていることがわかった。自分も自分の個性と向き合いたいと思った。
- ・ 目に見えるものばかりでなく、絆という目に見えないものの大切さが描かれていた。とても、ほんわかした温かい気持ちになりました。
- ・ 病気になっても高い理想を求め続け、人生を豊かにしている姿に感動した。私も本田さんのように、自分を追い込みながら目標を達成していきたい。



振り返りの様子



## 4 研究成果と課題

### (1) 研究の成果

研究の成果については、生徒の変容や表現物、道徳の学習についての自己評価（文章記述）、全国学力・学習状況調査と県学習状況調査の質問紙の結果から考察した。

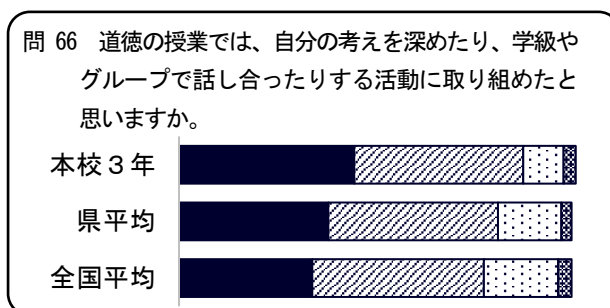
- 道徳の時間の自己評価から、授業中に自分の考えを深めたり、話し合い活動を通していろいろな考えがあることに気付いたりできていることがわかる。個々の生徒のことばには、道徳的判断力や道徳的心情の高まりが感じられる表現がみられる。また、今後の生活を展望したりよりよい生活をめざそうとしたりと、道徳的实践意欲や態度も育っていることがわかる。

《道徳の学習についての自己評価より》

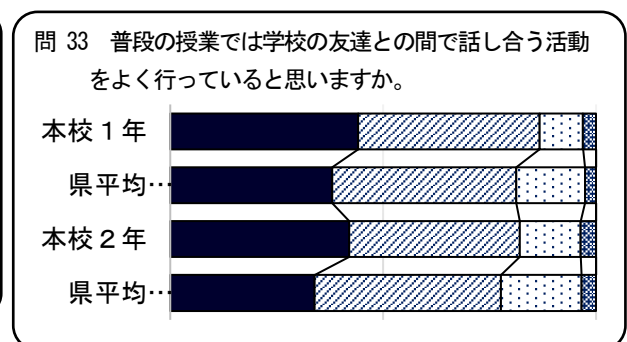
- ・ 人の気持ちを考えることができた。
- ・ 心のはぐくみに大切な時間で、ローテーションでは様々な先生の考え方にも触れることができ、とても勉強になりました。
- ・ とても楽しく、自分の意見を言える授業でした。
- ・ 道徳の授業には答えがないので、自分の思ったことをそのまま書けたのがよかった。
- ・ 友達の意見を聞き、自分とは違った新しい考えを発見できるのが良いと思いました。
- ・ 自分の意見と友達の意見を比べられるのでいいと思いました。
- ・ 自分が今まで感じていなかったことがたくさん学べました。特に、人の考え方や感じ方には差があって、それを人に押し付けず、互いに尊重しあうことが大切だと思った。
- ・ 自分の考えを友達と交流することによって、意見がさらに深まったと思いました。道徳の授業をすることによって、将来を想像し見通しがもてるようになったような気がします。これからも道徳の授業を続けていきたいです。

- 道徳の時間を量的に確保するとともに質的充実をめざし指導方法を工夫し、引き続き話し合い活動や交流の時間を多く取り入れた。このことは、全国学力・学習状況調査(H29. 4月実施)の質問紙の「1、2年生のときに受けて道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に答えている生徒が全国平均より大きく上回っているところからも分かる。1・2年生の県学習状況調査(H29. 11月実施)の質問紙ではその数値がさらに上がっている。道徳の授業と限定された問いではないが、話し合い活動や交流活動を多く実施し、道徳での取組が他教科にも広がりよい影響を及ぼしていると考えられる。1・2年生は、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか」の問いに、肯定的に答えている生徒が多いことから、生徒自身も効果を感じていることがわかる。

《 H29 全国学力・学習状況調査質問紙結果より 》



《 H29 県学習状況調査質問紙より 》



■ 当てはまる

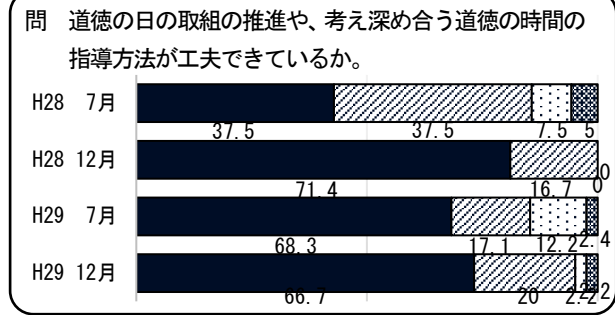
▨ どちらかといえば当てはまる

▤ どちらかといえば当てはまらない

■ 当てはまらない

- 毎年7月と12月に行っている教員の学校評価の道徳教育についての問いに8割を越える教員が肯定的に解答し、研究に関わる取組とその成果を実感していることがわかる。また、文章記述の肯定的な内容や意欲的なことばなどからも分かる。

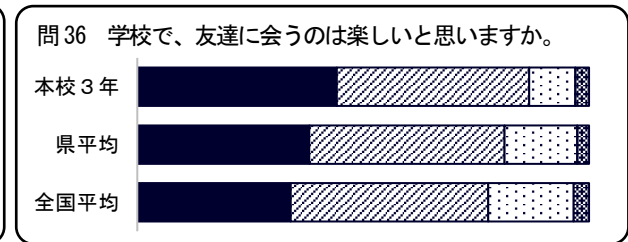
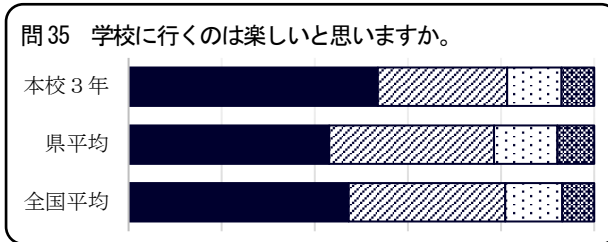
《 教員の学校評価 自由記述より 》 H29. 12月



- ・ 全員で授業を考え、工夫していると思う。
- ・ 団で協力して道徳を毎週実施することができた。協力体制を作っていくことが大事。生徒もあたり前に楽しく取り組んでいる。
- ・ 学年団という組織で協力して模擬授業など、授業の準備ができていると思う。
- ・ ローテーション道徳の取組はいいと思う。副担任でありながら授業ができるのは有り難い。また、他の先生方の授業を参観できるのも有り難い。
- ・ ローテーション道徳で初めて授業することができ、より一層道徳の教科化への意識を高めることができた。
- ・ 授業をすればするほど、道徳の難しさを感じます。以前の学校で、放課後模擬授業をしていたことがあるので、またそのような取組をして授業力をアップしたい。
- ・ 共通道徳やローテーション道徳など、各学年団がそれぞれ同じ方向を向いて、協力して取り組んでいる体制が良いと思う。
- ・ 先生方が、授業についてとても熱心に話し合ったり準備したりしているので、子どもたちが道徳に向かう姿勢が変わってきていると感じます。
- ・ 全教員が協力している体制を、本委託事業を受けなくても本年度と同様に実施できるように意識づけを継続させていくとよい。

- 多くの生徒が学校が楽しいと感じ、それ以上の生徒が友達とよい関係を築けているという回答結果に、本研究の取組が少なからず影響していると考えている。

《 H29 全国学力・学習状況調査質問紙結果より 》



■ 当てはまる    ▨ どちらかといえば当てはまる    ▩ どちらかといえば当てはまらない    ■ 当てはまらない

## (2) 課題

- 本年度量的確保を目標に、時間割変更や詳細な計画表を作成するなど工夫をしながら、道徳の時間の確実な実施に努めた。しかし、4・5月の年度初めと体育大会が重なる時期や宿泊学習前や職場体験、3年生の入試シーズンなど授業の振替だけでは対応できないこともあった。新しい年度が始まる前から、あらかじめ授業が取りにくい時期を見据えた年間指導計画にしておく必要性を感じた。
- 考え、議論する道徳をめざして、さまざまな指導方法の工夫を行っているが、もっと生徒の考えを広げ深められるように授業力を向上させるために、さらに実践を重ねるとともに研究授業等で議論を重ねていかなければならない。
- チーム学校をめざし、全教員で取り組む道徳教育を進めることで、指導体制の基盤はできたと思うが、年度が変わり構成メンバーが新しくなって、4月から実施できようさらなる手立てが必要だと思う。